

第4回定例会 一般質問

12名の議員が市政を問う
◆一問一答方式を採用◆

生沼 繁 議員

古河駅東部土地区画整理事業について

問 この事業は現在、古河市が実施している最大の事業（事業費約203億円）であり、20年経て、現在まで約85億円の支出。あと約118億円を投入して完成するが、次について伺う。①ここまで事業の遅れた要因は何か。②早期完成に向けて取り組むべき課題は何か。③不良土（処理費）についての認識と今後の処理は。④市長は任期中に完成の

めどを付けると公表されたが、そのプロセスやスケジュールを公表すべきについて。⑤事業の促進を図るには財源の確保が必要であるが、保留地の処分先について検討されているか。⑥地価の下落や不良土の処理費、建設費の高騰がある。現計画の大幅な見直しがあるか。

答（市長） ①補助事業の採択状況が厳しくなり、公共施設整備工事が遅れたこと、造成や不良土処理等が保留地価格の下落や工事費高騰等により遅れたことなどが要因と考えられる。②補助交付額のアップを図る働きかけ、西牛谷辺見線の早期整備については、国道125号への接続を平成30年ごろ、十間通りへの

接続は平成34年から35年ごろまでに開通を目指し、保留地や個人換地の利活用向上に努める。③累計処理金額は19億円、財源は保留地処分金である。作業量を削減するなど処理経費の減額に努めたい。④整備計画の再点検、見直しを行い、一日も早い完了を目指す。⑤経費削減、国庫補助枠拡大や保留地の効率的な早期販売の検討など、確実な財源の確保に努めたい。⑥整備計画等について調査検討し、必要があれば見直しも行いたい。



造成中の区画整理地内



稲葉 貴大 議員

工業団地造成について

問 仁連地区新産業用地について。実際にどの開発手法、どのような開発スケジュールで今後進めていくのか伺う。工業団地開発や企業誘致について近隣市町も名乗りを挙げている中、現状だと古河市が遅れをとっているような状況ではないかと感じている。スピード感を持って進めていかなければならないと考えるが、市の考えを伺う。

答（都市建設部長） 仁連地区の工業団地開発の整備手法について、スピード感を持って企業誘致に取り組むためには、市が主体となり開発行為を行うことが最もよい手法であると考えている。整備スケジュールについて、平成29年度は開発関係機関との協議および手続を進め、実施設計に着手し、平成30年度から本格的な工事を進め、平成31年度にはおおむねの区域の工事完了を目指したい。

教育の充実について

問 ICT教育の先進的な取り組みについて、古河市も昨年40件を超える視察があり、今後ICT機器を活用した教育の方向

性について伺う。魅力ある教育を進めていくためにも実績が出てきたICT教育のさらなる充実を図り、児童生徒の学習環境の整備も必要だと考える。

答（教育部長） ICT教育について、取り組んできた内容をさらに洗練させ効果的に進めていくとともに、学校で日常的にICT機器を活用できる環境づくりについても段階的に整備を進めたい。また、児童生徒の発達に応じて情報モラル教育も充実させていきたい。

